

1. 施設栽培バラのナミハダニに対するチリカブリダニとミヤコカブリダニの捕食特性（情報）			
[要約] ナミハダニが少発生の場合はミヤコカブリダニの方が効果は高く、ナミハダニが多発生の場合はチリカブリダニの方が、防除効果が高い。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	086-955-0543

[背景・ねらい]

チリカブリダニとミヤコカブリダニはハダニ類の有力な捕食性天敵で、生物農薬として販売されているが、捕食特性は異なっている。これら生物農薬を用いてバラのナミハダニを防除するため、両天敵の捕食特性を比較して、両種の特性にみあった利用法を明らかにする。

[成果の概要・特徴]

1. ナミハダニが少発生の場合の放飼では、ミヤコカブリダニの方がチリカブリダニよりも防除効果が高く、逆にナミハダニが多発生の場合の放飼では、チリカブリダニの方がミヤコカブリダニよりも防除効果が高い（図1）。
2. ナミハダニが多発生条件下で個体数が急激に減少した場合でも、ミヤコカブリダニはチリカブリダニよりも遅くまで葉上に滞在するので、それ以降にナミハダニが発生した場合にミヤコカブリダニは素早く対応することが期待できる（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. ハダニ類および他の害虫の防除には、ミヤコカブリダニ及びチリカブリダニに影響の少ない農薬を用いる。
2. 2種カブリダニの併用効果については検討中である。

[具体的データ]

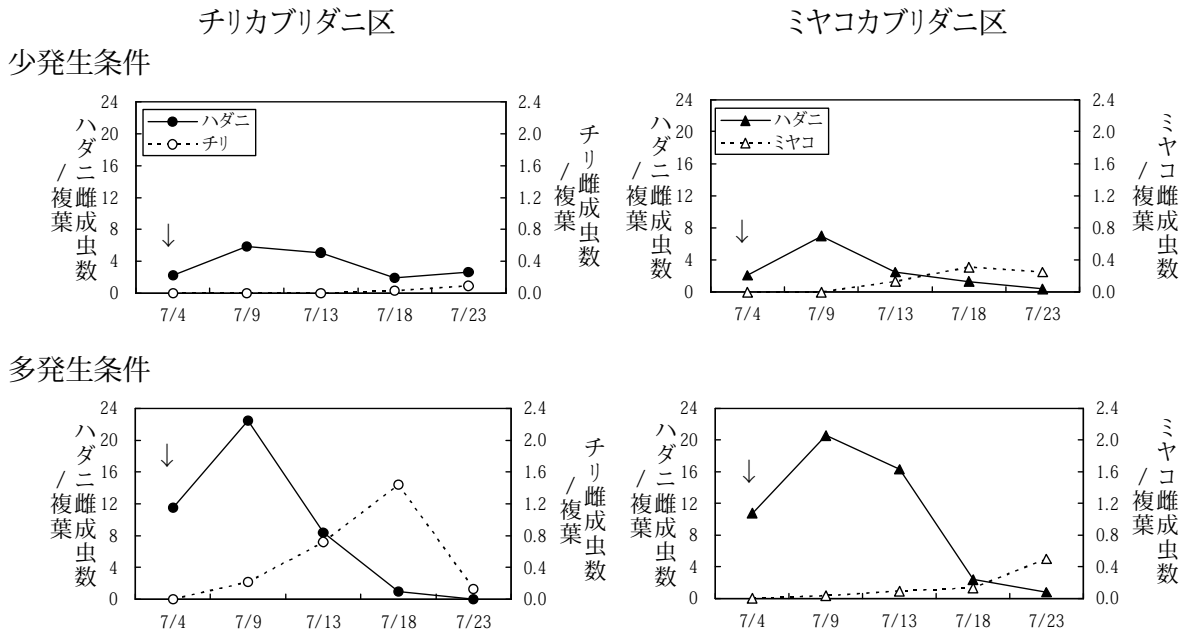


図 1 ナミハダニの初期密度がカブリダニ類の防除効果に与える影響(ポット試験)
 注) ハダニはナミハダニ、チリはチリカブリダニ、ミヤコはミヤコカブリダニを示す
 ↓:天敵放飼(30頭/ポット)

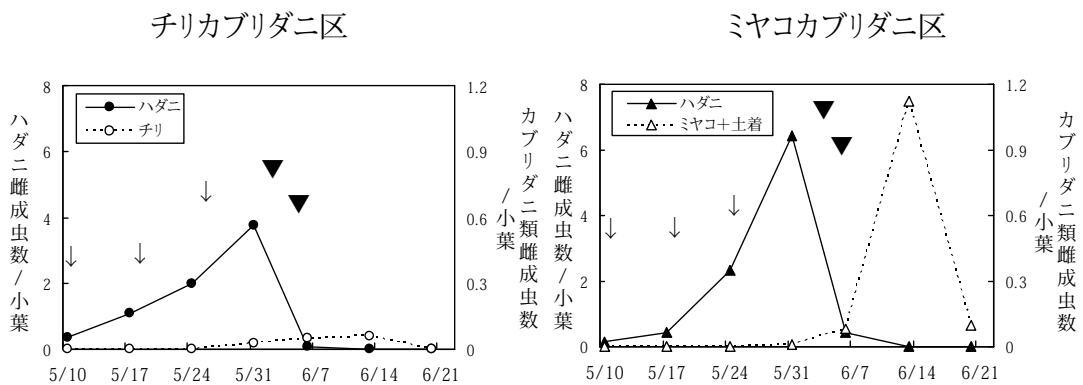


図 2 シュート上でのナミハダニとカブリダニ類の密度推移(ハウス試験)
 注) ハダニ、チリ、ミヤコは図 1参照、土着は土着のカブリダニを示す
 ↓:天敵放飼(5月10、19日:2,000頭/10a、5月25日:20,000頭/10a)
 ▼:殺ダニ剤散布(6月1、4日)

[その他]

試験研究課題・事業名：天敵を活用した施設栽培バラのハダニ類防除技術の開発
 予算区分：交付金（病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立）
 研究期間：平成 18～20 年度